

経済発展と対外不均衡：明治期以降の日本の経験

松林洋一（神戸大学）

<要旨>

本稿では、明治期以降の我が国の対外不均衡のダイナミズムを定量的に考察していくことにする。

長期的な開放成長モデルでは経済発展と対外不均衡の関係は「国際収支発展段階説」と呼ばれているが、現実の姿はモデルが想定している以上に複雑である。

本稿では、上記の点を考慮しつつ対外不均衡の中長期的パターンの特徴を、明治期以降の日本のデータを用いて検証していくことにする。